

備前市施策評価シート

(平成21年度事業)

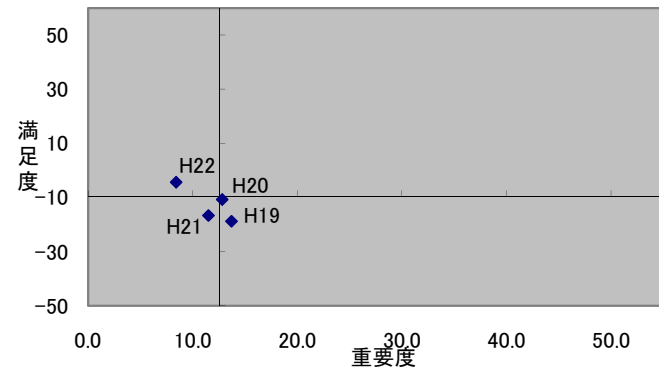
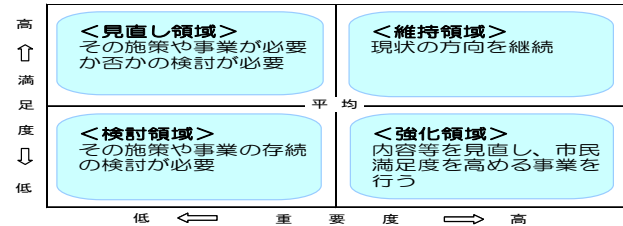
施策名 (小項目)	ため池・治山対策	コード	01-03-02	作成者	農林水産課長 横山雅一 0869-64-1831	このシート作成に要した時間	4.0 時間
		役職		氏名		電話	

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	基本施策(中項目)	災害に強いまちづくり
① 対象と目的 (誰のために、何のために)	地域住民が安心して生活が出来るよう、老朽化したため池を改修し、地元受益者に安定したかんがい用水の供給と防災機能の強化を図る。 荒廃地や危険渓流、山復崩壊地等については治山事業を行い、危険箇所の土砂災害の防止を図る。	
② 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	ため池の改修等は年次的に事業実施しているが、全体数が多く、未整備の箇所も多く残っている。 また、地元管理者の高齢化に伴い管理不足の池も多いため、今後も整備を推し進めて行く必要がある。治山事業については市の総面積の80%が山林であり、所々に荒廃林地や危険渓流、山復崩壊地等が土砂災害の原因となる恐れがあるため、本事業により予防・復旧を進める必要がある。	
③ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民との連絡を密にし、的確な情報収集を行い危険箇所の把握。</li> <li>ため池及び山地危険箇所の整備を年次的に進める。</li> </ul>	

④ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21	H22
重要度(%)	13.7	12.8	11.5	8.4
満足度(%)	-18.8	-10.8	-16.7	-4.4



調査結果に対するコメント、市民の反応等	前年度に比べ、満足度は上がったものの重要度は下がっている。しかし、災害防止に関する市民の意識は高く、事業実施希望は多い。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

⑤ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H19	H20	H21		H22	
ため池整備事業(県営)	目標 箇所	0	0	1	要望箇所に対する工事実施箇所。 地元同意、分担金確約が必要なため、長期設定が困難。	H22	1
	実績 箇所	0	0	1		H23	1
	達成率 %	-	-	100.0		H28	1
	ベンチマーク					-	-
治山事業(県営)	目標 箇所	1	2	1	要望箇所に対する工事実施箇所。 県事業であり、県内の優先順位で各年の採択に変動があり、設定が困難。	H22	1
	実績 箇所	1	2	1		H23	1
	達成率 %	100.0	100.0	100.0		H28	1
	ベンチマーク					-	-
参考指標①	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率 %					H28	
	ベンチマーク					-	-
参考指標②	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率 %					H28	
	ベンチマーク					-	-
参考指標③	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率 %					H28	
	ベンチマーク					-	-

⑥ 施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)									施策への貢献度 ☆☆☆☆☆ ~ ☆☆☆☆☆	経費の性質 義務的 経常的 その他	
				平成19年度			平成20年度			平成21年度					
				直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数			
1	ため池整備事業	B	県営ため池整備事業	単市	0	496	0.07	0	1,010	0.12	3,187	464	0.05	☆☆☆☆☆	その他
2	治山事業	B	県営治山事業	単市	0	386	0.06	0	865	0.11	0	1,492	0.04	☆☆☆☆☆	人件費のみ
					平成19年度			平成20年度			平成21年度				
					0	882	0.13	0	1,875	0.23	3,187	1,956	0.09		

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
岡山県土木部	砂防事業	危険渓流、山地崩壊地については、諸条件により砂防事業でできる箇所もあるため、調整が必要である。

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	県が事業主体であるが、市が積極的に地元調整等を行うことにより、早期に事業化する可能性が高いため、市の役割は妥当と考えます。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	5	採択要件を満たしておれば、市の負担が少なくすむことから、補助事業を採用し実施することは妥当と考えます。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4	治山事業により、災害防止の効果を挙げている。中・長期的目標を達成できるよう県と調整を進めることは有効な施策であると考えております。	
本年度(H22年度)取組内容(課題解決状況)		平成21年度から県営ため池整備事業中田池地区(閑谷地内、事業年度H21~24予定)に着手しており、平成21年度は測量設計、平成22年度から現場着手する。	
翌年度(H23年度)取組目標		平成22年度に引き続き、堤体工事を実施する。	
二次評価者コメント		異常気象に伴う防災面からの整備促進と適切な予防措置が必要である。事業実施については多額の費用が必要であり、関係者と協議しながら優先順位を決め、県への要望活動を行ってください。	
役職 産業部長 氏名 竹林 幸一		基本施策への貢献度 4 やや高い	